

第1回教育委員会会議

令和5年1月24日
午後3時30分
市会第6委員会室

案 件

報告第2号

令和4年度大阪市英語力調査について

令和4年度 大阪市英語力調査について

大阪市英語力調査とは

- (1) 目的 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。
- (2) 実施テスト GTEC Core（英語4技能型テスト）
- (3) 調査対象 大阪市立中学校第3学年全生徒

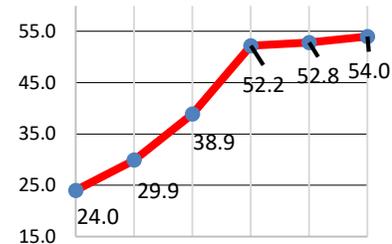
(4) 測定方法

技能	スコア	回答方法
聞くこと	210	マークシートによる選択式
読むこと	210	
話すこと (やり取り・発表)	210	オフラインで、専用タブレットによる音声録音方式
書くこと	210	記述式
計	840	

〈参考〉

● H25(2013)～R1(2019) 2技能型(「聞くこと」「読むこと」)英語力調査を実施

*1 CEFR A1レベル相当以上の中学3年生の割合(%)



2014 2015 2016 2017 2018 2019

※R2(2020)は新型コロナの影響により中止

大阪市英語力調査結果

		GTEC 平均スコア					TOTAL	*1 CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合
		リスニング (聞くこと)	リーディング (読むこと)	スピーキング (話すこと)	ライティング (書くこと)			
R3 (2021)	大阪市平均	108.0	100.9	93.0	140.3	444.4	52.6%	
	*2他都市平均	104.0	98.0	99.0	157.0	461.0	—	
	差	+4.0	+2.9	-6.0	-16.7	-16.6	—	
R4 (2022)	大阪市平均	105.4	102.8	96.6	152.4	459.4	55.8%	
	*2他都市平均	104.0	99.0	97.0	153.0	456.0	—	
	差	+1.4	+3.8	-0.4	-0.6	+3.4	—	

〈参考〉令和3年度英語教育実施状況調査
(例年、文科省が実施)

	CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合
大阪市	52.6%
*3全国平均	47.0%

*1 CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment): 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠。A1は英検に換算すると3級程度。国の第3期教育振興基本計画における目標指標は50%以上。

*2 他都市平均とは、GTECを実施した全国970校、約10万人の平均値

*3 全国平均とは、各自治体で測定した値の平均値

- 4技能トータル・スコアでは、昨年度から15ポイント上昇し、他都市平均を3.4ポイント上回る。
- リスニング、リーディングが他都市平均を上回っており、本市の強みである。一方で、昨年の弱みであったスピーキング、ライティングも他都市平均並みに上昇している。
- スピーキングは3.6ポイント上昇し、ライティングは12.1ポイント上昇した。

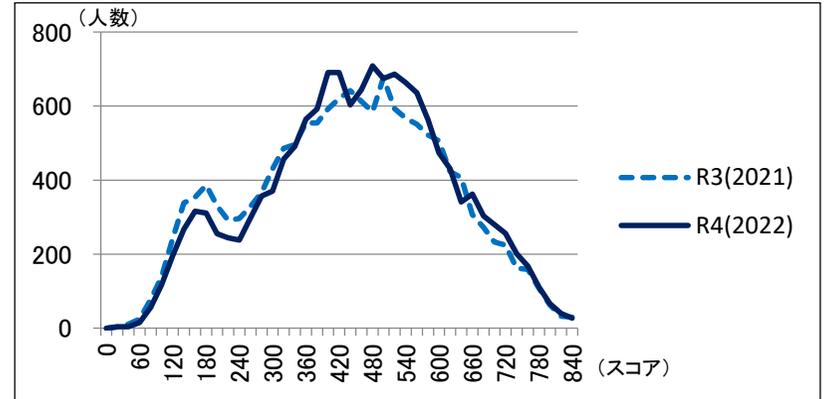
◆ 発信力(スピーキング、ライティング)向上の要因

英語教育実施状況調査(文科省)設問 (R4.12.1時点調査)	大阪市結果	
	R3 (2021)	R4 (2022)
授業で、半分以上の時間、英語による言語活動を行っている割合(中学3年生)	45.2%	47.7%
スピーキング、ライティングテストの両方を実施した割合(中学3年生)	100%	100%
スピーキングテストの実施回数 ※英語によるインタビューや発表等のテスト	1校平均3.8回	1校平均3.8回
ライティングテストの実施回数 ※自分の意見や考えを英語で作文するテスト	1校平均3.9回	1校平均4.7回

※ テストのみの回数であり、普段のスピーキング、ライティングの活動は含まない

- 授業で、英語による言語活動を行っている割合の増加
- スピーキングテスト、ライティングテストの両方を実施した学校の割合は、昨年度から引き続き100%であり、特にライティングテストの実施回数が増加

◆ 大阪市英語力調査(GTEC)における度数分布(4技能トータル)



- 下位層が減少し、中間層が増加
- スピーキング、ライティングの無回答率が減少

英語力調査を活用した授業改善プログラム

*4 英語教推進ワーキング会議

委員: 平井教育委員(座長)、中教研英語部部長、英語科教員、教育委員会事務局職員

